

第6回市民公開講座「放射線治療」 報告書

2021年3月12日

報告者：京都薬科大学

がんプロプログラムコーディネーター 講師 中村暢彦

閲覧期間：2021年2月15日（月）～28日（日）

形式：オンライン開催

主催：多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン（文部科学省）～高度がん医療を先導するがん医療人養成～・京都薬科大学

講演：京都府、京都市、一般社団法人京都府薬剤師会

参加者数：470名（登録者数：549名）

<内訳>

本学：23名（学部生3名、大学院生5名、教職員15名）

本学以外：447名（病院235名、薬局174名、企業12名、一般22名、他大学4名）

概略：

本市民公開講座は「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン（文部科学省）の主催で、高度で先進的な薬物療法を提供できる薬剤師の養成を目指す一環として実施された。

内容：

手術・薬物療法と並び、がん治療の1つである「放射線治療」について、日常の疑問を市民に応える内容で医師・放射線技師の先生からわかりやすくご講演いただいた。

講演1では、京都大学医学部附属病院 放射線部 主任診療放射線技師 藤本 隆広 先生から「診療放射線技師が答える！放射線治療の疑問」と題した講演が行われた。医療に用いられる放射線が単純X線撮影やCT撮影に用いられる仕組み、放射線が治療として細胞に影響を与える仕組み、また、放射線を扱う医療従事者が放射線から身体を守るためについての基礎的な知識を丁寧にご後援頂いた。後半部分は市民の質問を想定した放射線治療の流れから、放射線照射時の「狭いところが苦手」や「マーキングが消えますか」などの日常診療時の不安や疑問を解消するために応えて頂いた。

講演2では、京都大学大学院医学研究科 放射線腫瘍学・画像応用治療学 准教授 松尾

幸憲 先生から「こんなに役立つ！放射線治療」と題した講演が行われた。放射線治療は早期から遠隔転移まで幅広く用いられ、高齢者に於いても重要な役割を果たす。また、放射線治療は日本のみならず世界的に普及が十分でないことが伝えられた。後半部分は、薬物療法や手術と組み合わせることが必要であること、また、様々ながん腫やステージに放射線治療が用いられることを具体的な症例で示して頂いた。


<藤本 隆広 先生>

主催：多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン（文部科学省）－高度がん医療を先導するがん医療人養成－・京都薬科大学
第6回 市民公開講座『放射線治療』 2021年2月15日-28日

診療放射線技師が答える！ 放射線治療の疑問

京都大学医学部附属病院放射線部
藤本 隆広

KU:P



<松尾 幸憲 先生>

2021.2/15-28 第6回 市民公開講座

こんなに役立つ！ 放射線治療

松尾 幸憲

京都大学医学部附属病院 放射線治療科

